



特集—1

東日本大震災、 武蔵野市の対応と 明日への備え

平成23年3月11日午後2時46分。三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の大地震が発生しました。この地震は巨大な津波を引き起こし、東北と関東の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらしました。武蔵野市では、市制施行初となる災害対策本部を設置。余震が続くなか市民の安全を確認するとともに、帰宅困難者への対応を実施しました。その後は計画停電への対応、友好都市である岩手県遠野市と連携した被災地への支援、さらには市内に避難された方への支援などを行ってきました。本特集では、東日本大震災発生からの武蔵野市の取り組み、そして今後の災害への備えについてご紹介します。

大地震発生！ その時、武蔵野市は

3月11日午後2時46分の地震発生時、武蔵野市では震度5弱の揺れを観測しました。かつてない大きな地震が起き、市は即ちに災害対策本部を設置しました。市民の安全を確保するために、市はどのような対応を行ったのでしょうか？災害対策本部の経緯や消防団の活動などを通じて、3月11日に何が起きたかを検証していきます。

地震発生当日の動き

3月11日(金)	地震発生
14時46分	市災害対策本部を設置
14時55分	各学校に被害状況確認を指示
15時00分	浄水場は被害なし。水圧が下がり水の出しの悪い箇所があり
15時15分	第1回災害対策本部会議を開催
15時17分	市内で震度4の余震発生
15時28分	消防署派遣員が対策本部に到着
15時29分	市内住宅でブロック塀が倒壊したとの情報あり
15時40分	防災行政無線で各機関に被害状況の報告を依頼
15時50分	消防団により地震後危険排除・安全確認警戒を開始
16時00分	第2回災害対策本部会議を開催
16時02分	吉祥寺駅に多数の滞留者ありとの報告
16時23分	武蔵野赤十字病院で対策本部を設置
16時35分	ブロック塀倒壊が吉祥寺東町で3件、八幡町で1件確認
16時55分	吉祥寺駅北口でバス停に500人以上の長蛇の列
17時00分	第3回災害対策本部会議を開催
17時17分	友好都市の岩手県遠野市役所に状況を確認。人的被害なし
18時30分	第4回災害対策本部会議を開

地震概要

東北地方太平洋沖地震

発生日時

平成23年3月11日(金)
午後2時46分

震源地

東北地方三陸沖
(北緯38.0度、東経142.9度、牡鹿半島の東南東130キロメートル付近)

震源の深さ

約24キロメートル

地震の規模

マグニチュード9.0
(観測史上国内最大規模)

武蔵野市庁舎

震度5弱を観測
(計測震度4.8)

武蔵野消防署 吉祥寺出張所

震度5弱を観測

市制施行初めての災害対策本部を設置

地震発生の直後、市長は昭和22年の市制施行以来初めてとなる災害対策本部の設置を発令しました。災害対策本部は、市域において大規模な災害が発生、もしくは発生するおそれがある場合に市長がその権限において設置します。庁内には非常配備体制が敷かれ、特別の業務体制となりました。

午後3時15分には第1回の災害対策本部会議を開催。会議では、市内の被害状況や市民の安全確認の情報収

集が行われました。瓦の落下やブロック塀の倒壊などには担当課や消防団、消防署が連携をしながら対応していきましました。また、各学校や保育園に状況確認を依頼し、安全を確認しました。

市内では大きな被害がないことが判明する一方、鉄道各線の復旧の見込みが立たず、吉祥寺駅などで数多くの滞留が発生。災害対策本部では、公共施設に帰宅困難者の一時避難所を開設していきましました。



第1回災害対策本部会議

12時00分	5時00分	1時30分	0時00分	12日(土)	23時40分	23時30分	22時20分	21時52分	21時30分	21時25分	21時20分	21時00分	20時00分	19時35分	18時55分	18時55分
すべての一時避難所を閉鎖	学校、第一中学校が武蔵野市到着	ディズニールランド遠足の第三小学校、第一中学校が武蔵野市到着	ディズニールランド遠足の第三小学校、第一中学校が武蔵野市到着	本町コミュニティセンター(吉祥寺本町)に一時避難所開設 吉祥寺図書館(吉祥寺本町)に一時避難所開設	翌日の始発未定との発表	京王井の頭線に長蛇の列。JRは翌日の始発未定との発表	京王井の頭線、西武線の運転再開を確認	援スアーション開設を確認	都立武蔵野北高等学校に帰宅支援スアーション開設を確認	第6回災害対策本部会議を開催	市民会館(境)に一時避難所を開設	市民会館(境)に一時避難所を開設	第5回災害対策本部会議を開催	都立武蔵高等学校に帰宅支援スアーション開設を確認	首都圏および東北地方のJRの本日中の復旧は不可能との情報	災害用備蓄品を各一時避難所に配布することを決定

インタビュー

消防団を指揮し、市内の安全を確認

武蔵野市消防団長

井口忠司さん

震災が発生してから約1時間後に市役所の災害対策本部に到着しました。まず行ったのは、10ある分団への被害の確認要請です。災害対策本部のシステムを使い、約250名の団員に各分団の詰所に急行するように一斉メールで指示しました。各分団はポンプ車を使い、被害状況を確認していききました。「門扉の瓦がくずれかけている」という連絡が入りました。所有者の許可を取ったうえで、危ない瓦を落とすように団員に指示しました。他にも、塀がくずれている場所がありましたので、火災時に使う警戒テープを貼らせました。余震によって崩れ落ちたときに通行人が巻き込まれないようにするためです。さらに、余震によって家屋が倒壊する可能性もあったので、重機隊を招集し、すぐに出勤できるように市役所で待機させておきました。



災害対策本部での指揮

すべてのエリアの被害状況が確認できたのは、午後5時ぐらいでした。日没後、余震で停電や火災が起これないとも限りません。各分団に投光器、発電機、そして車両の燃料を確認するよう指示を出しました。

団員に自宅での待機を指示できたのは午後11時ごろでした。

立川から6時間かけて市役所に帰還

防災安全部防災課 曾我宣之

3月11日、立川市で応急手当普及員の講習会に参加していました。講習中に地震が発生し、テレビを見ると『多摩西部は震度5弱』。その報道を見て、防災課の職員として市役所に戻るべきだと判断しました。

まず立川駅に行きました。電車は不通、タクシーもバスも最後尾がわからない程の長蛇の列であり、歩いて帰ることを決断しました。

歩き始めたのは午後3時30分ごろです。中央線に沿ってただひたすら歩き、市役所に到着したときには午後9時30分ごろになっていました。

体力的にはかなり辛かったですが、最前線で災害対応に当たる防災課職員として、気力を振り絞り歩き続けました。

帰宅困難者の受け入れを実施

武蔵野商工会議所

芦沢茂幸さん(事務局長)

高際賢治さん

市からの要請を受け、商工会館の4階にある市民会議室を帰宅困難者の方へ開放しました。当日は事務局長を含む6人の職員が徹夜で対応。会議室は90人分の机と椅子が設置されていますが、スペースの余裕をみて、受け入れ人数を80人としました。

午後7時半ごろから利用者が集まり始め、9時半ごろには80人に達しました。情報がわからず不安な皆さんのために、1時間ごとに朝まで、鉄道運行状況を張り出しました。また深夜には、毛布や水、非常用クラッカーなどが届けられました。感心したのは帰宅困難者の方がパニックにならず、みなさん譲り合いの心で高齢者やお子さんに接していたことです。一時避難所は翌12日午前8時をもって閉館しました。

震災後の日々 武蔵野市と市民の取り組み

発生後これまでの動き

地震から一夜明けた12日から、震災の被害が少しずつ明らかになっていきました。地震の大津波による甚大な被害、そして原子力発電所の被災。電力供給不足への緊急対策として計画停電への対応を実施、そして被災地への支援を開始していきます。3月11日以降の震災に関連する市の取り組みを紹介いたします。

3月11日

地震発生／災害対策本部設置
市内被害状況の把握・安全確認
支援者による災害時要援護者の安全確認を実施

3月12日

帰宅困難者対応
8時ごろより、JR中央線が復旧し、帰宅困難状況が徐々に解消

3月13日

東京電力より計画停電について発表
※3月14日6時20分から開始

3月14日

計画停電開始予定時刻
※当初は実施されず
計画停電が初めて実施(17時00分～18時30分)
義援金募金箱を市施設43カ所に設置

3月15日

遠野市へ支援物資搬送
※災害時協定に基づき、NPO法人コメリ災害対策センターの協力

3月16日

武蔵野市内で初めて計画停電が実施される(18時45分～20時45分)
※実施エリア…第3グループ(緑町・西久保・八幡町・関前・境・境南町・桜堤などの一部)

3月17日

ツイッターで「計画停電」情報の配信を開始
東京電力より武蔵野市の第1グループは計画停電対象外の連絡(23時1分)
東京電力社員が市災害対策本部へ常駐派遣(3月31日まで)
東京都が東京武道館と味の素スタジアムで避難者の受け入れを開始

3月26日

第一次被災地支援隊を岩手県沿岸部へ派遣(4月1日)
※支援物資も同時搬送

3月31日

第三次被災地支援隊を岩手県沿岸部へ派遣(4月6日)
遠野市へ緊急物資搬送

4月1日

武蔵野市民社会福祉協議会により緊急救済物資公募(4月3日まで)／市民ボランティアが遠野市へ4月5日に公募救済物資を搬送
都営緑町第3アパートに避難者11世帯が入居手続き、入居説明会を実施
※「わたしの便利帳」、「生活用品セット」、「市指定有料ゴミ袋」などを提供

4月5日

第四次被災地支援隊を岩手県沿岸部へ派遣(4月11日)
遠野市へ緊急物資搬送

4月7日

※災害時協定に基づき、イトーヨーカ堂武蔵境店および(社)トラック協会多摩支部の協力で宮城県沖でM7.4の地震が発生、遠野市は震度5強(武蔵野市は震度3)を観測、派遣中の第四次支援隊は全員無事(23時32分)
武蔵野市で東日本大震災避難者登録制度および避難者支援窓口を開設

4月8日

調査隊(市長・防災課長ほか2名)が岩手県沿岸部へ支援調査(4月16日)

4月14日

第一次から第四次までの被災地支援隊報告会を開催

4月16日

武蔵野市が取り組んできた被災地支援に関する報告会を開催。出席した市民からは活発な質問や意見が出されました。



3月24日 葛飾区の金町浄水場から放射性物質が検出され、市でも乳児を持つ保護者にペットボトル入りの水を配布。

3月23日 地震発生から12日後に現地に向け出発する第一次被災地支援隊。現地の情報が入りつらい時期でした。



市民の安全を守るため、震災関連の情報はすべて防災安全センターに集約され、災害対策本部でその対策が協議されました。



震災後 3か月の取り組み



武蔵野市長
邑上守正

3月11日に発生した東日本大震災の被害は、甚大なものとなりました。犠牲になられた方々には哀悼の意を表するとともに、被災地の皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、市民の皆様からは、心温まる義援金や救援物資をいただき、感謝いたします。

地震発生以来、市では災害対策本部を設置し、地震による市内の危険排除・安全確認警戒、帰宅困難者対応、計画停電対応、水道水の安全確認、放射性物質の測定など、市民の安全と安心の確保に万全の体制で臨んでまいりました。また、初期の緊急対応が一段落した時点で、被災地支援のあり方を検討するため、私自身も被災地へ足を運び、沿岸部の被災状況や遠野市による被災地の後方支援体制を確認いたしました。本市では現在、東京都市長会による被災地支援や避難者受け入れなどに体制を切り替えており、今後、被災地のニーズに沿った専門職員の派遣などにより一層支援を拡充していきます。一日でも早く被災地の復興が実現できるよう、一人ひとりが被災者を思い、心をつなげて、都市の復興を支えていきましょう。



被災地を視察する邑上市長



遠野市で感謝の横断幕とともに

3月19日 遠野市へ支援物資搬送
※災害時協定に基づき、NPO法人コメリ災害対策センターの協力
3月22日 市内水道水の放射性物質の測定開始
第一次被災地支援隊を若手県沿岸部へ派遣（3月27日）
※支援物資も同時に搬送
被災した避難者の受け入れ開始（13時00分）
※4月28日まで武蔵野総合体育館にて実施
東京都水道局金町浄水場から暫定指標値を超える放射性ヨウ素が検出されたとの報道（14時20分ごろ）
東京電力より武蔵野市全域が計画停電の区域から外れることについて通知される（21時45分ごろ）
3月24日 東京都が23区、武蔵野市、町田市、多摩市、稲城市、三鷹市に対し、飲料水ペットボトルを配給
水道部が市民に配布開始
武蔵野市の水道水は放射性ヨウ素が検出されず、安全性が確認されたと市長が臨時記者会見にて安全宣言（17時30分ごろ）

4月17日 災害廃棄物処理隊（3名）を宮城県仙台市へ派遣（4月23日）
4月19日 都営緑町第3アパートに避難者15世帯が入居手続き、入居説明会を実施
4月24日 東京都市長会大槻町支援隊に市職員1名を派遣（4月29日）
4月25日 むさしの避難者サポートユース（1号）発送
5月2日 東京都市長会釜石市支援隊に市職員2名を派遣（5月7日）
5月10日 むさしの避難者サポートユース（2号）発送
5月13日 都営緑町第3アパートに避難者6世帯が入居手続き、入居説明会を実施
5月22日 東京都市長会釜石市支援隊に市職員2名を派遣（5月27日）
5月24日 市内土壌中の放射性物質の測定開始
6月1日 市内空気中の放射性物質の測定開始
6月2日 東京都市長会浪江町支援隊に市職員1名を派遣（6月9日）
6月7日 市立小中学校給食食材の放射性物質の測定開始
6月8日 市内プール水中の放射性物質の測定開始

市内地震被害状況（主な被害）

- 1 人的被害
死者・行方不明者・負傷者 なし
- 2 住家被害など（被災証明発行実績）
全壊・半壊 なし
一部損壊 9件
商品破損 1件
- 3 公共建物被害
天井非構造部材の落下 2件
（市庁舎・総合体育館）
- 4 その他
○ブロック塀倒壊 11件
○エレベーター閉じ込め 1件
他に屋根瓦の損傷など軽微な被害あり



倒壊したブロック塀

※ 6月20日現在、被災証明などで市災害対策本部が確認したもの

復旧・復興に向けて 被災地支援への取り組み



武蔵野市は国内9市町村と友好都市の関係を結び、
日ごろからさまざまなかたちでの交流を行っています。
その一つに岩手県遠野市があります。
同市は地震で市庁舎が使用不能となる被害を受けながらも、
沿岸部の被災地への支援拠点として活動を開始。
武蔵野市では、支援隊の派遣や物資の提供など、
同市を通じた被災地支援を行ってきました。
また、市民も物資輸送ボランティアや支援物資や義援金の寄付など
さまざまなかたちで被災者の方々に支援しています。

武蔵野市による東日本大震災被災地への支援の概要

1 — 人的支援

- 支援隊派遣（友好都市の岩手県遠野市に拠点を置き、同市災害対策本部の指揮下で岩手県沿岸部の被災地で活動）

第一次支援隊 3月23日～27日 6名
陸前高田市、釜石市、大槌町および山田町
第二次支援隊 3月26日～4月1日 6名
陸前高田市、釜石市、大槌町および山田町
第三次支援隊 3月31日～4月6日 6名
釜石市、大槌町および山田町
第四次支援隊 4月5日～11日 6名
大槌町

- 調査隊派遣（被災地の現状調査と今後の被災地支援のあり方を遠野市と協議するため市長、防災課長等が被災地へ支援調査）
調査隊 4月14日～16日 4名

- 災害廃棄物処理隊派遣 4月17日～23日 3名 仙台市

- 東京都市長会支援隊派遣

市長会大槌町支援隊 4月24日～29日 1名
市長会釜石市支援隊 5月 2日～ 7日 2名
市長会釜石市支援隊 5月22日～27日 2名
市長会浪江町支援隊 6月 2日～ 9日 1名

2 — 物的支援

- 市単独

3月15日 物資調達協定（飲料水缶（23ℓ）600個） 遠野市
3月19日 物資調達協定（ポリタンク（18ℓ）500個） 遠野市
3月22日 物資調達協定（石油ストーブ50台） 長岡市小国支所
3月23日 第一次支援隊（紙おむつ3480枚、粉ミルク480缶） 遠野市
3月26日 第二次支援隊（ろうそく136本、ヘッドライト60個、懐中電灯15本、電池式ランタン6個、手動型多機能ライト30個、単2乾電池80本、単3乾電池24本、単4乾電池100本） 遠野市
3月31日 （社）トラック協会多摩支部（生活用品セット（4人用）100セット） 遠野市

4月 5日 イトーヨーカードー物資調達協定（男性用下着600着、女性用下着600着、シャンプー170本、ひげそり500本、石けん501個、カップラーメン500食、マヨネーズ504本、缶詰500缶） 遠野市

- 武蔵野市民社会福祉協議会の市民呼びかけ（救援物資募集）

4月 5日 単1乾電池476本、単2乾電池505本、食品用ラップ3027本、台所用洗剤1286本

3 — 義援金

4076万2447円（6月17日現在）



被災した遠野市庁舎（遠野市）



各地から集まる支援物資（大槌町）



がれきが撤去された道路（山田町）



救援物資の仕分け作業（陸前高田市）



家屋からがれきの撤去作業（大槌町）



急ごしらえの現地対策本部（大槌町）



生々しい被災地の状況（山田町）



遠野市長より説明を受ける支援隊（遠野市）



沿岸部の被害状況を視察（南三陸町防災対策庁舎）



支援物資を担ぎ搬入（陸前高田市）



被災地へ向けられたメッセージ（金石市）

第一次支援隊隊長

塩瀬晴久（環境生活部保険課長）

3月23日～27日

武蔵野市の友好都市である岩手県遠野市では自らも市庁舎が全壊するなどの被害を受けながら、岩手県沿岸地域の後方支援の拠点として活動が続けています。武蔵野市では発災直後から市内の被害などに対応する一方、遠野市と連絡を取り続け、他の友好都市へも呼びかけ、物資などの支援を行っていました。

このような中で、3月22日に遠野市の本田敏秋市長からの支援職員の派遣要請を受け、人的支援を行うことになりました。すぐに人選を行い、6名の第一次支援隊が編成され、翌日の23日に遠野市へ向かいました。

現地では遠野市に拠点を置き、同市の職員やボランティアとともに沿岸地域の陸前高田市、釜石市、大槌町、山田町に向かい活動しました。主な活動内容は、情報収集のほかは救援物資の仕分けや搬出入作業です。

被災地では体育館などの広い場所が確保できず、使い勝手が悪い場所を救援物資の集配所しているところが多くありました。また、集配所では全国から集まったボランティアのほか、現地の行政職員も従事して



いましたが、行政職員自身も被災し犠牲になられた方も大勢いて、集配所内を切り盛りできる人材の確保も難しい状況のところもありました。そのため、救援物資の搬出入などの作業だけでなく、集配所をより効率よく機能させることで、避難者が求めている物資を円滑に提供できるように支援をしました。私たちの隊には新潟県中越地震で活動した隊員もいたので、当時身につけたノウハウを提供できたのです。

被災地では救援物資の集配所の運営のほかにも、あらかじめ決められていた避難所以外に避難されている方の把握や、がれきの集積場所や処理方法など、多くの課題を目の当たりにしました。武蔵野市でも想定以上の災害が起きた場合について検証する必要性を強く感じました。

市民ボランティアが 社協の支援物資を 現地へ運搬

市内でクリーニング業を営む露木幹也さんは震災後に被災地に毛布を送る活動をしていました。新たな届け先を求めて、消防団関係者に相談したところ、3月末に「遠野市へ市民社会福祉協議会の支援物資とともに毛布を届けてはどうか」という打診を受けました。露木さんが快諾すると、4月5日に運搬することが正式に決定。露木さんは友人である中嶋洋幸さんに声をかけ二人で搬送することになりました。

4月5日午前9時、二人の乗ったバンは市の第四次支援隊とともに武蔵野市役所を出発。東北自動車道を一路、岩手県へと向かいました。地震によって路面にひびが入り、仮舗装はしてあるものの、荷物を一杯に積み込んだ重い車両で通ると車体が浮いたそうです。

午後7時、事故により遅れていた市の支援隊の車両と合流し、遠野市役所に到着しました。日没後の到着にもかかわらず、遠野市の職員が数多く出迎えてくれました。

「正しいかどうかを考えるよりも、まず動くというのが大切です。情報も入ってくるし、動き方も分かります」（露木さん）

市民が軽トラックを寄付



5月2日に消防団長、副団長が見舞金の贈呈のため遠野市を訪れた際、武蔵野市民から軽トラック寄付の希

望がある旨を伝えると、同市の本田市長がこの申し出を快諾。境在住の市民の方は5月10日に自分で軽トラックを運転し、遠野市へ届けました。

「遠野市の職員のみなさんが疲れていたのが印象的でした。長期戦になるので、体には気を付けてほしいですね」（中嶋さん）
露木さん、中嶋さんは、要請があればいつでも被災地に物資を届けたいと語っています。



中嶋さん（左）と露木さん（右）

被災地支援 武蔵野市民社会福祉協議会の 取り組み

人的支援

- ・ 4月10日～16日まで 職員派遣1名(生活福祉資金貸付)
- ・ 4月27日～28日まで 職員派遣2名(ボランティア派遣打合せ)
- ・ 5月中旬より支援ボランティアを募集。5月31日～7月1日を5期に分け、3泊4日の日程で岩手県遠野市を拠点に大船渡市でボランティア活動を実施。派遣人数は各期15人の計75人を予定。

物的支援

- ・ 車両1台を貸出(物資搬送)
- ・ 遠野市へ緊急支援物資の輸送(乾電池、ラップ、洗剤)
- ・ 大船渡市への自転車提供(合計75台)
- ・ 遠野市、大船渡市へ支援物資(夏物衣類、クーラーボックスなど)

市内被災避難者への支援

- ・ 緊急小口資金の貸付を決定。
- ・ 市発行の「避難者サポートニュース」にアンケート・返信用封筒を同封し、避難者のニーズ調査を実施。
- ・ 調査結果のニーズに対する聞き取り、ボランティアなどによる対応を実施

被災者の受け入れ 市の取り組み

① 被災者の 一時避難所を設置

3月17日に東日本大震災により被害を受けた避難者の受け入れ施設を開設。3月23日から4月28日まで武蔵野総合体育館に20名程度を受け入れる施設を設置しました。

② 都営緑町第3アパートに 避難者が入居

都営緑町第3アパートには、4月1日には11世帯、4月19日に15世帯、5月13日には6世帯の避難者が入居しました。入居者には防災課や住宅対策課、ごみ総合対策課などが一体となったサポートチームが説明を行うとともに、「わたしの便利帳」「生活用品セット」「市指定有料ごみ袋」などを提供しました。

③ 避難者を支援する制度と窓口を設置

4月8日、市では東日本大震災の避難者を把握し、適切な情報提供をするための「東日本大震災避難者登録制度」を開設し、あわせて「東日本大震災避難者支援窓口」を設置しました。

- 対象 …………… 東日本大震災による被災者
福島原子力発電所事故に伴う避難指示の対象者など
- 目的…………… 東日本大震災により武蔵野市に避難してきた方の把握と相談の受付
- サービス内容 …「わたしの便利帳」「生活用品セット」「市指定有料ごみ袋」などの提供
「むさしの避難者サポートニュース」による定期的な支援情報の提供
住民票のある自治体の情報提供
- 登録受付窓口 市役所1階市民課 0422-60-1839
吉祥寺市政センター 0422-22-1821
中央市政センター 0422-56-3800
武蔵境市政センター 0422-53-2200
- 支援窓口…… 市役所2階生活福祉課 0422-60-1242



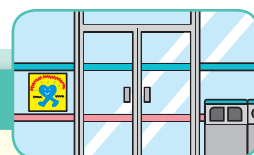
ようやく生活も落ち着いてきています。ただ福島の家に戻りたい思いも強く、また主人が震災後単身赴任中のため、生活の基盤が築けない不安があります。生活環境も大きく変わったので、地域の方との交流により、少しでも心に余裕ができればと思っています。

避難所はどこも人であふれ、受け入れ施設を探すのに必死でした。近くの親戚宅に身を寄せ、その後も避難所を転々とした。別の親戚を頼って、練馬区に移り、そこで都営住宅へ応募し、武蔵野市の都営住宅への入居が決定。現在、母と私、娘の3人で暮らしています。「避難者サポートニュース」掲載の市貸出自転車を利用したり、高齢者総合センターの方に仕事を紹介してもらい、福祉関係の仕事にも就きました。

被災者の声より 武蔵野市へ 避難して

福島県南相馬市出身です。震災当日は強い揺れが3分ほど続き、大変怖かったです。3月12日の夜、各家庭に設置されていた防災無線受信機から、避難するよう指示が入り、わずかな着替えだけを持って避難所へ向かいました。

災害時の帰宅に関する3つの備え



「災害時帰宅支援ステーション」
ステッカーイメージ

今回の大地震で市内にも多くの帰宅困難者が発生しました。市民の皆さんの中にも徒歩で帰宅された方も多くはないでしょうか。いざというときの備えについて3つにまとめました。

① 帰宅ルートを確認しよう

勤め先や学校から自宅まで、どの道で帰れるかをご存知ですか？まずはルートを確認して、できれば実際に歩いてみましょう。

② むやみに帰らない

災害が発生した場合は、むやみに帰宅せず会社や学校に泊まることも選択肢に入れましょう。無理に帰宅するといけなどの2次被害が起きるおそれがあります。

③ 帰宅困難支援所を活用

どうしても帰らなければいけない時は、帰宅困難支援所を利用しましょう。次の場所では、水、トイレ、休憩場所や情報の提供などを受けられることがあります。

機関	設置場所
東京都	全都立学校および東京武道館
9 都区市	「災害時帰宅支援ステーション」のステッカーが貼ってあるコンビニエンスストアやファーストフード店など ※水、トイレ、情報の提供のみ

昭和56年以前の建物を対象とした耐震診断



市では昭和56年以前に建築された木造住宅について、耐震性の強化に向けた診断や改修に助成制度を設けています。まず専門家を派遣し、無料の簡易耐震診断を行います。

さらに詳しい診断が必要と判断された場合は、専門業者に依頼し、より詳細な耐震診断を行います。診断費用の2/3（限度額は木造で10万円、非木造で20万円）を助成します。さらに、改修が必要な場合は、戸建住宅や集合住宅で改修費用の1/2（限度額50万円）を助成します。該当する住宅を所有の方は、まず無料の簡易診断を受けましょう。

問 住宅対策課 0422-60-1905

ブロック塀の安全性を高めましょう

●ブロック塀の改修・補修

市が危険なブロック塀と判定した塀を改修・補強する場合に必要な経費の一部を補助しています。助成額は1メートルあたり6000円。限度額は改修で48万円、補強で24万円です。

問 防災課 0422-60-1821

●緑化にともなうブロック塀の撤去

市では道路に接する部分に生け垣などの植栽を行い、緑化する費用の一部を助成しています。ブロック塀を撤去して生垣などの緑化をする場合は撤去費用も対象となります。ブロック塀等撤去4000円/㎡（限度額30万円）ほか。

※施工費の範囲内 ※要事前相談、事前申請

問 緑化環境センター 0422-60-1863

災害時要援護者対策事業

～災害時に安否確認を行う地域のネットワークづくり～

災害時に家族などによる援助が困難で、何らかの助けを必要とする方（災害時要援護者）が、地域で安否確認を受けることのできる仕組み作りを平成19年10月から開始し、本年度より市内全域で実施されます。

要援護者台帳の作成を市が行い、地域と連携して災害時に安否確認をする支援者とのマッチングを進めています。

問 生活福祉課 0422-60-1848

地域の避難所を住民が運営する 避難所運営組織

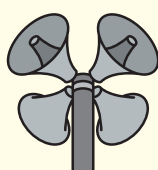
市では、各地域の避難所を住民自らが運用できるよう「避難所運営組織」の活動を支援しています。この組織は地域の防災リーダーとして、防災訓練や啓発活動などを自主的に行っています。ぜひ、全エリアで組織を立ち上げ、地域の防災活動に参加していきましょう。

現在の活動している組織	避難所
境南地域防災懇談会	境南小学校
南町防災ネットワーク	第三小学校
一小地域の防災を考える会	第一小学校
大野田地域防災の会 (第四中学校を含む)	大野田小学校

大震災の経験を生かし 将来の災害に備える

東日本大震災では、さまざまな混乱や不便はあったものの、武蔵野市民が避難生活をすることはありませんでした。しかし、東京都を含む首都圏でも、今後、大きな地震が起きることが予測されています。今回の大震災での経験を生かしながら、いつ起こるかわからない大災害に備えて、日ごろから「いざという時」の準備をしておきましょう。

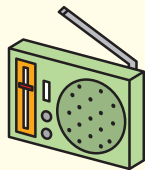
災害時に正確な情報を知るためには



防災無線



広報車



FMラジオ



ケーブルテレビ



武蔵野市防災安全センター
WEB

災害が発生したときに身の安全を守るためには、正確な情報を知ることが大切です。市では災害時の情報をいくつもの手段を使って市民のみなさんにお伝えしています。防災無線や広報車は屋外にいる方々に情報を伝えます。屋内にいて聞き取れなかったら、市と連携

して災害時の情報をリアルタイムで放送する「むさしの-FM78.2MHz」や「武蔵野三鷹ケーブルテレビ」を視聴してください。インターネットの「武蔵野市防災安全センターWEB」(<http://www.bousai-musashino.jp>)でも防災無線で放送した情報を掲載します。

日頃から緊急時の備えを整えましょう

●非常持ち出し袋

災害発生時の避難時にすぐ
に持ち出せる袋です。



非常食、携帯ラジオ（予備電池）、ろうそく、ライター（マッチ）、ティッシュ、ビニール袋、下着、救急医薬品、現金、健康保険証、飲料水、懐中電灯（予備電池・電球）、ヘルメット（防災ずきん）、ナイフ・缶切り・栓抜き、タオル、上着、軍手、常備薬、貴重品、住民票のコピー など

武蔵野市民防災協会（市役所西棟1階）では、防災用品の販売を行っています。同協会は、市民による防災推進員を市内に配置し、防災知識や対策の普及・啓発などの活動も行っています。

☎ 武蔵野市民防災協会 0422-60-1926

●備蓄品

災害後に自宅に戻り、生活をするためのものです。



3日分の食料（缶詰、レトルト食品、チョコレート、のど飴など）、燃料、洗面用具、簡易食器、使い捨てカイロ、マスク、新聞紙、予備のメガネや補聴器、3日分の飲料水、毛布・タオルケット、寝袋、鍋、やかん、ラップ、アルミホイル、簡易トイレ、工具類 など



市役所内にある市民防災協会